

第2回元町山手地区再整備基本構想・基本計画検討委員会 議事要旨

- 1 日 時 平成30年11月29日(木) 14時00分～16時00分
- 2 場 所 神戸市教育会館501会議室
- 3 出席者 別紙参照
- 4 主な意見

※ 開会、あいさつ、委員紹介、資料の説明については省略するとともに、各委員等の発言内容は一部要約しています。

- (委員) 県関係団体の事務所が集積し、栄光教会等の地域資源も県庁周辺にあるのが元町山手地区の大きな特色といえるが、一般県民から見た際にどのような団体、施設があるのかわかりづらく、これらの地域資源が必ずしも地区の魅力に繋がっていない。近隣の関係団体や民間企業の施設など、5ページのように計画エリアにとらわれずに、魅力向上に繋がりそうなものを計画の対象に含めてはどうか。
- (委員) 元町山手地区全体の構想と重複する部分もあるが、県民会館部会の主な意見を5点ほど報告する。
- ①元町山手地区のまちづくりの中の1つのランドマーク性ある建物として、県民会館が機能の一翼を担う。
 - ②県民会館の趣旨である「多様な人々が集う幅広い文化創造の拠点」として、若手の育成に資するような機能等を強化する。
 - ③元町駅から県民会館に来館する際、勾配があり、車いすの方は特に移動が大変だ。全体的な構想とも関連するが、元町駅からの移動ルートについて、バリアフリー化も意識しながら、県民会館に来やすいものとなるよう一体的に整備する。
 - ④大阪に近年建設された大型商業施設に対抗できるような賑わいの拠点となる必要がある。インキュベーション施設やコワーキングスペースを整備するなど、特にビジネス機能やインバウンドなど、大阪への流出が著しい中で、何とかして阻止する必要がある。対抗できるエリアは兵庫県では三宮周辺であり、西側は元町辺りまでが限界である。賑わいやビジネス機能など人の集約ができるような機能を県民会館、県庁舎、賑わい交流ゾーンのいずれかのエリアにもたせる。
 - ⑤県民会館に県の関係機関が入居しているが、県民への情報発信を効果的に行うために、他施設に入居している団体を含めた一体的な集約を図る。
- (委員) 元町駅西口から、神戸駅東口までの高架下はモトコーと呼ばれているが、安全性の面で課題があり、順次再整備を行っている。元町駅は、西口に隣接したエリアについて、山側・海側ともにスムーズに行き来できるような商業施設になることが望ましい。駅から元町山手地区へ利用しやすいルートを検討するにあたり、県、神戸市、JRが力を合わせる必要がある。

東側の方が西側より歩行者が多いが、魅力を高めて西側の利用者を増やすのも重要だ。

(委員) 元町駅高架下の南北の開放性は大きなテーマであり、解決できることを期待したい。

なお、自転車、歩行者の交通量については、朝夕のラッシュなど時間変動する様子をもう少し注意深く分析した方がよい。

(委員) 元町山手地区の土地・建物は、駐車場も含め細かく分断されており複雑である。小さな建物が多すぎるので、本来は集約して整備を行い、すっきりさせることが望ましい。ただ、区画整理をしすぎると、人間にはかえって精神的に望ましくないという見方もある。地域の雰囲気を感じられるものは残しつつ、ある程度洗練させることも重要ではないか。細い道、小さい建物・駐車場など、小スペースに分散している施設はもう少し集約させた方が利用しやすいと考える。

今回、この会場まで元町駅から歩いてきたが、信号で3回立ち止まった。寸断されている証拠である。不便さを楽しむという余裕を持つことも重要な一面だが、スムーズに移動ができることも大事である。スムーズな動線作りも考慮した方がよい。

(委員) 基本理念と目指すべきまちの将来像から配置計画の話に移るのは、いささか唐突感がある。全体構想図のような空間的なイメージがあるとよい。本庁舎の配置案の検討に移る前に、地域全体としての目指すべき方向性、地域資源をどのようにネットワーク化するかというイメージが生まれるとよい。前回、六甲山から海までの断面を常に意識すべきとの意見もあったが、県庁周辺は相当レベル差（坂道）がある。そのレベル差をうまく活用するとよい。

(委員) 先ほど大阪を意識して活力を創出するのは、元町までが限界という意見があったが、そのとおりだ。三宮の再整備は神戸市が行い、元町山手地区の再整備は県が行うという形になっている。神戸市と同じものを目指しても意味がなく、元町は元町らしさを意識しなければいけない。例えば、県民会館に建設するホールについては、西宮に芸術文化センターが存在するし、神戸市も新たなホールの建設を計画しているので、機能分担を考えながら、元町では何が必要なのか、特色を出していく必要がある。

神戸市の経済規模であれば都市の中心地として、三宮、元町周辺は非常に貧弱だ。もっと活気ある土地にしなければならないというのは間違いない。その中で、地域性、個性をできるだけ意識して検討しないとコンセプトが失われる。

- (委員) 神戸市の三宮都心やウォーターフロントの開発を踏まえ、広域的な観点から、元町山手地区が何を担うべきか、鮮明にすべきだ。その考え方に基づく、まちづくりの基本方針として新たな賑わいの創出を掲げる場合、カフェやショップ、レストランの誘致よりも、観光やビジネスに結びつけるレファレンス機能等の方がメインではないか。
- (委員) 人の集積について検討する際、「たまたま感」と「わざわざ感」という表現があるが、「わざわざ感」が生じる場合、人は集まらない。たまたま、自然な人の往来があり、何かの目的のついでに、たまたま訪れたところに意外性のある施設や利便施設があると、成功しやすい。大阪の成功要因は、大阪の特性であるが、たまたま往来する人が多いこと。「たまたま感」の創出は難しい課題だが、たまたま集まった人々に何らかの機会を与えれば、活性化に繋がる。
- (委員) まちづくりの基本方針の「安全・安心で、ゆとりあるまち」の1項目として、「県政の司令塔にふさわしい先進的な機能を備えた庁舎」という表現が存在するが、県庁舎は県の中核的な施設であるので、別立てとして謳った方がよい。
- (委員) 「司令塔」という表現もいささか修正の余地がある。「ひょうご五国」と言われる広い兵庫県の中で、県民局など県政のネットワークの中核的な拠点という位置づけであり、もう一度表現を吟味した方がよい。
- (委員) 三宮方面から元町方面への回遊性を高めるためには、三宮や元町に訪れた人に、いかに周辺を楽しんで歩いていただけるかが非常に重要である。特に三宮方面から元町に向かう人の流れについては、元町駅東側の南北の通りである鯉川筋で止まっているというデータがある。元町駅東側から南側のウォーターフロントに向かう人の流れについては、鯉川筋の空間をできるだけ歩行者が歩きやすいようにするため、地域の人と議論しながら取り組みをすすんでいる。そのような中、山側方面については、市も元町駅の西口から北への動線が課題であると認識している。県、神戸市、JRが協力して検討していくことが重要である。
- (委員) まちづくりの基本方針の「緑豊かな都市空間の整備」の部分について、記載されている内容は公共空間に関するものである。現在は、山手幹線が開通しており基盤がかなり整備されているが、歩行者の空間を増やすため、公共空間の在り方をもう一度見直してもよいのではないか。
- また、「民間からの提案と活力の導入」については、公共施設、歩道など公共空間の賑わいづくりとしての活用に加え、施設の低層部などをセミパブリックな空間にして民間の呼び水とするなど、地域に貢献できるような施設としてもよいのではないか。

- (事務局) 再整備を行うにあたり、低層部分は多くの県民に利用いただけるフロアであることが望ましい。
- また、緑豊かな空間の整備のためには、現在元町駅西口から公館まで道路整備がされているが、もう少し北に続くように整備したい。
- 主要施設の配置案の建替案1については、県庁2号館・3号館と県民会館の間の道路の付け替えも含めて検討してはどうかと考えている。
- ご指摘のように、県庁舎のこういった再整備が民間の呼び水になるようにしたい。
- (委員) 基本計画策定の段階では、神戸市営地下鉄からの動線も考慮する必要があるのではないかと。出入口やエレベーター、エスカレーターの配置について、現在は、地下鉄から県庁2号館南側に続くエスカレーターと、その横にエレベーターがあるのみであり、県民会館へ直接アクセスするエレベーターはない。
- (委員) 霞ヶ関の地下のように、エレベーターを効果的に配置してバリアフリー化を実現すると地表面との高低差が魅力になる。地下をいかにうまく活用するかが非常に重要である。
- (委員) 地下からの動線については、基本計画策定の段階の検討事項と考えるが、基本構想の策定段階でも考え方が伝わるような表現とした方がよい。
- また、災害対策センターとの関連等、留意事項を示した方がよい。
- とりわけ、兵庫県公館、栄光教会は、震災、或いは震災の前から大変な努力を行い残してきた山手地区のシンボリックなゾーン。それに対するリスクをしっかりと基本構想で表現することが重要である。
- (委員) 元町駅から鯉川筋を通り北に向かう人の流れが多いが、鯉川筋から県民会館や公館の間のエリアは煩雑である。元町駅からの回遊路を作るのであれば、周辺エリアも含めた全体構想の検討をしておかないと後々禍根を残すことにもなりかねない。
- (委員) 大きなストラクチャーとしては、この地域一体は道路の整備がなされている。そして、波及効果として、鯉川筋一体を繋ぐ、界限空間ができている。例えば、鯉川筋からトアロードに至るエリアであるトアウエストは、随分変わってきた。
- こうした変化は行政の計画だけで拾いきるのは難しい。むしろ計画をしない方がよいエリアができるケースもある。例えば、大阪南のいわゆるアメリカ村とかヨーロッパ通。こちらの空間も大きなフレームとしては公共空間が整備できており、発展に繋がった。

- (委員) 広域的なビジョンをビジュアル化し、そこから周辺施設との関連性を示す等、配置計画に至る間のイメージを整理した方がよい。基本計画の中で整理を行う場合でも、基本構想の中に、基本計画にバトンタッチするメッセージが必要である。
- (委員) 神戸市外への県庁機能の移転可能性の説明があったが、現在地以外の場所はあるのか。
- (委員) このような議論を行う際は、現在地ありきではなく、他の候補地の検討が必要だ。コスト、人の集積等を分析し、最終的に現在地が最適かどうかという議論をする必要がある。
- (事務局) ゼロベースであらゆる可能性があるということを前提に検討している。事務局としては、まずはコストや諸施設等の集積等の比較検討を行い、その上で、県庁周辺で整備を行う場合に考えられる県庁舎の配置の案、という順番で資料を提示した。
- (委員) 人の賑わいとコスト面で条件に合う候補地があれば、現在地に固執する必要は全くないが、現実的にはなかなか難しい。
また、神戸市が三宮再整備を行うので、その相乗効果を狙うこともできるため、現在地が相応しい。
- (委員) この段階で元町山手地区全体の統一感を出すのは難しいと思うが、庁舎と県民会館に限っても、機能として団体を入居させるのか、本来の芸術文化機能をどうするのか、賑わいをどのように取り入れるのか、行政機関だけなのか、或いは防災的な機能を重要視するのか、マトリックス的に整理した方がよい。
ハードに焦点を当てた整理になっているが、基本計画の段階では、1カ所にあるべきものと、分散してネットワーク的な方が望ましいものと、整理を行った方がよい。整理を行うことで、あまり大規模なものは必要がないという結論に至るかもしれない。
- (委員) この段階では、ボリュームの議論まで行うのは難しい感じもする。このエリアは十分な容積がある。その中で、敷地という概念を超えた整備の在り方を追求するというを前提に、平均的に計画を行うのではなく、メリハリをつけることが望ましい。先ほど道路の付け替えの議論もあったが、そのような方策も空間整備として考えられることをニュアンスとして表現することが必要である。
また、基本的な考え方については、県民会館同様、本庁舎も再整備の留意事項を記載した方がよい。

そして、県民会館の基本的な考え方について、「県民の幅広い交流拠点」の項目に記載の「開放的で潤いのある空間を備えた存在感のある華やかな施設」は、空間的な柱として記載した方がよい。或いは、「気軽に良質な芸術文化に親しむ環境」の項目の「芸術文化」と表裏をなすものと捉えるならば、そちらに記載してはどうか。都市デザイン、空間デザインの方向性を示す表現、例えば本庁舎であれば「ランドマークとなる庁舎」として明示されているが、県民会館の建築デザインの在り方があまり表現されていないので柱立があった方がよい。

(委員) ハードの議論に加え、ソフトの部分をしっかり考えていく必要がある。まちづくりというハードの議論から始まる中で、県庁の在り方、仕事の部分をどのように位置づけるのか。兵庫県は「ひょうご五国」と呼ばれ、地域性が豊かであるが、その魅力は県民が創り出している。ランドマーク性も重要だが、本来業務とのバランスをとることも必要である。もっと慎ましくて、品のあるデザイン、神戸の街づくりも含め、県の在り方も含めて検討をした方がよい。働き方改革、ワークライフバランスの重要性が叫ばれる中、賑わいとは何か。文化施設、商業施設であれば、子供も大人も高齢者も楽しむことを求められるが、県庁にそのような機能を求めて来庁する人はそれほど存在するのだろうか。耐震性能上早急な対策が必要であることも理解するが、そのような観点もある程度押さえながら検討しないといけない。今後、県議会としてもしっかりと取り組んでいく必要がある。

(委員) あくまで委員会は各分野の専門家が議論する場であり、今後県議会でも当然議論はあるものとする。そういう意味では、基本理念及び目指すべきまちの将来像について、より議論を深めた方がいいだろう。

(委員) 本日は県庁舎中心の議論だったが、元町山手地区の再整備としてはどのような整理を考えているのか。

(事務局) 資料1に記載した項目構成で、各委員の意見も踏まえ、基本構想案を作成しようと考えている。次回、資料1の柱立に沿って、いただいたご意見を反映させ、1つのものとして提示したい。

(委員) 施設の整備以外の意見については、まちづくりの基本方針に象徴的に包含されるのか、もう少し議論されるのか。

(事務局) 基本構想では、まちづくりの基本方針や県庁舎・県民会館の基本的な考え方、そして、その2つの間に土地利用計画の記載を考えているが、その部分は図面的なものにすることも検討する。今回、順番や構成がわかりにくい部分があったため、1つのストーリーとして違和感がないように作成したい。

(委員) 資料1の項目が基本構想の項目立てになっているが、4は土地利用計画という概念がいいのか、或いは地域整備とか元町山手地区整備の在り方という形でもう少し広く考える方がよいのか、検討いただきたい。この議論がないため、文書表現として、理念の次に唐突に細かい県庁の話になることに違和感がある。次回以降の議論では繋がるような構成にしていきたい。

本日の議論では出てこなかったが、エリアマネジメントを行うか否かは別として、地域でのエリアマネジメントの在り方をこの提案の中に盛り込んで行く必要がある。そのために関係する方々に委員に就任いただいている。事業費等に目が向きがちだが、こちらにも目配りをお願いしたい。

(事務局) 前回に引き続き、様々なご意見をいただき、大変感謝申し上げます。

今回はもう少しわかりやすく全容がわかるもの、それから、基本構想には盛り込まないが基本計画に盛り込むべきものも合わせて整理してお示しさせていただき、元町らしさを活かした元町の将来像を描いていきたい。全て公共でできるわけではないので、一定の目標を示す形にならざるを得ないが、県庁舎の在り方、その役割についてもしっかりと整理をした上で、基本構想の準備を進めていきたい。今後ともよろしくお願い申し上げます。